第二百五十二號

NAMBEI SHIMPO

14 de SETEMBRO de 1939

週刊南米

サンパウロ市ピラーレス町八三八番地
發行所 南米報社
廣告料 一年 二三ミルレス
讀者料 一段 七〇ミルレス

本紙の特色

ニュースの週間綜合編輯

——NOTICIAS DA GUERRA EUROPÉA——

言論

歐洲戰と世界の不安

苟も平和愛好者は皆憤慨す

△

歐洲の暗雲が低迷してゐたことは久しい間であつた。獨伊の提携に對して英佛ソ三國の軍事同盟を以つて飽くまでドイツの帝國主義的野望に對抗せむとして折角奔走中、肝腎のソ聯はドイツと不可侵條約を締結して了つた。斯の獨ソ妥協は正に青天の霹靂で驚いたものは當の英佛ばかりでは無くイタリアも日本をも唖然たらしめた、勿論ドイツの豹變はボロニアに挑戰する爲めの一時的方便であり術策でやつた事とは云へ、防共協定即ちベルリン——ローマ——東京の樞軸を無視した裏切り的行動で、正直で生一本のイタリアをして甚だしく失望せしめ、國際信義を守る事にかけては眞正直と謂はる、程義理堅い日本をして俄かに冷水三斗の思あらしめた。

△

個人間の事でもそうだが充分信賴して居るものから裏切られると、信賴の度が强ければ强いほど失望の次に來るものは『憎に陣る』ことであるが、正直であり義理堅いだけ其の度も一層强いのも人情だ。

國際間の事も之れと同じで今度ドイツが盟邦日本に或はイタリアに採つた態度を觀ては憤慨せざるを得ない、共產主義は世界人類共同の敵である、この共同の敵を防ぐ爲めに出來た防共同盟の一員がその敵と手を握つたのだ、此事に關してドイツ政府の情報部長フリツチエは新聞記者團に次のやうな事を云つてゐる『防共協定は精神的の國際約束であり獨ソ不可侵條約は國家間の一協定に過ぎない』と白ばくれた。

△

然しながら、凡そ國際間の約束と云ふものに精神的でないものは無い筈だ、否必ず精神的で無くてはならぬのだ、たゞドイツ當局の此の聲明に從ふと、ドイツには眞の國際信義と云ふものがない、口でうまい事を言つても肚の中で何を考へ何を謀んで居るか知れたことでない——と云ふ事を圖らずも右フリツチエ情報部長が告白したのだ。

△

一方斯うした節操に乏しい國と、英佛に脊負ひ投げを喰らはして手を握つたソ聯はどうか、由來ソ聯外交の眞相と云ふものは眼前の便宜の爲めには何時でも友邦を賣つて恥としない、彼は反侵略を口實に世界戰爭の煽動者であり最も大なる野心家である、つまり節義を閑却したる行爲こそ、今次の獨ソ不可侵條約ではあるが、之れが爲めにドイツが盟邦イタリア國の興味を自ら冷めさせたこと、同時に我々日本人の同情を失つたことは非常なもので、自業自得とは言ひながら今次の歐洲戰に際して損をした事は大きからう。

△

ダンチツヒ及びコレドール問題に對し、飽くまでも頑强に出て讓ることを知らぬドイツとポロニアに就ては今より四年前即ち一九三五年七月三日ポーランドベツク外相ベルリンを訪問しヒツトラー總統初めノイラド外相ゲーリング航空相等と會見盛大なる晩餐會後獨波兩外相連名のコムミユニケを左の如く發表したことがある。

ベツク外相とヒツトラー總統はヨーロツパ時局の全般的諸問題特に兩國に關係ある諸懸案につき意見を交換したが、兩者の見解は殆んど完全に一致を見、一九三一年一月二十六日の共同宣言は獨波兩國の相互關係並にヨーロツパの平和を確保する建設的要因として顧る有意義なることを確認した兩國政府は今後とも緊密な接觸を保ち、ヨーロツパの平和確保に協力するであらう。

尚この會談でヒツトラー氏とポーランド外相とは當時の『獨波不可侵條約』を再確認し、更にポーランドよりドイツに軍艦を註文するやや、東歐ロカルノ協約案やメーメル問題と協議した。

△

我々は以上の歷史然も僅か四年前の事實を回顧し、更に今日の有樣を觀て感慨禁ぜざるものがある。ポーランドを初めイギリスと云ひフランスと云ひ最後の最後迄平和的解決を要望したのだ、その間ドイツ唯一の侵略國イタリアすら與良なる市民に生活上の脅威を與へんとしてゐる。

◇

平和を愛するものが憤り立つのも道理ある事である、我々は今更ながら英國皇帝陛下の御放送遊ばされた對獨宣戰布告の精神に就ては衷心同情同感を禁じ得ざるものである。

（衝譯は第四面に掲載）

【鐵の火洗禮を受けつゝある獨波國境】

空陸猛襲で刻々迫る 波蘭首府の運命

怪しくなつた獨蘇不侵條約

ドイツの對波宣戰布告と同時にドイツ軍當局では一週間以內に敵國首府ワルソーを陷落せしめて見せると豪語し、空陸兩軍の猛襲を試みてゐる、そしてドイツ側では八日午后を以てワルソーは陷落したと發表したが即ちドイツ軍最高司令部の言に依れば、機械部隊は各地にてポーランド軍後方を突きシエルズとワルソーとの間の地點でブイツスラ河を越え畔に達し八日午后ワルソー東岸の攻擊基地としてサンドル・ミエルズを占領、ブイツスラ河西岸に於てはズオーレン・ラドムの西を拔き更に北上してカルワルヤ到達した、ワルソー防護のポーランド軍はワルソーの東方ウイズズエル附近にブーグ河を渡り退却中、とあるが只今（十三日）朝迄にワルソーは未だ陷落してゐないやうで、ポーランド軍の猛烈なる反擊に遭ひ郊外地で激戰中であらうし、更に南方ではルテニア國境より一兩日來突如襲擊部隊が現はれ、レンベルグ、ルブリン方面に北上、中部のドイツ軍と相應じつゝブツカ河の線に向つてゐるポーランド側は斯くて三分の一の土地を獨軍の蹂躙に委せて居る有樣で敗戰狀態となつたので、英佛は軍事顧問、技術家や飛行機を供給しポーランド援助に乘り出したもの、如くであるが大勢は既にドイツ側に有利と觀測せられる

獨ソ不可侵條約

ソ聯政府は九日豫備兵の一部召集令を下したが、各地から集つた兵隊はモスクワで列車を乘り換へ西部國境に送られてゐる模樣であり而して有事豫備兵の召集は獨ソ不可侵條約にも拘らず、ソ聯がドイツ軍のポーランド及ソ聯國境の進出をソ國が喜ばぬ證據だと見られる向政府は豫備兵の召集と同時に國內食糧品の徵發をも開始したと傳へられ、斯くてソ國い戰時態勢も漸く强化されんとしてゐるがタス通信社を通じて左の聲明を發表した

獨波戰が益々廣汎に亘り危險性の增大にかんがみソ國政府は國防强化のため豫備兵の部分的動員の措置を講じた、これら赤軍の豫備兵召集はウクライナ、白系ロシヤ、レニングラード、モスクワ、ドル・ミエルズを占領、ブイツスラ河西岸に於てはズオーレン・ラドムの西を拔き更に北上してカルワルヤ到達した、ワルソー防護のポーランド軍はワルソーの東方ウイズズエル附近にブーグ河を渡り退却中、とあるが只今（十三日）朝迄にワルソーは未だ陷落してゐないやうで、ポーランド軍の猛烈なる反擊に遭ひ郊外地で激戰中であらうし、更に南方ではルテニア國境より一兩日來突如襲擊部隊が現はれ、レンベルグ、ルブリン方面に北上、中部のドイツ軍と相應じつゝブツカ河の線に向つてゐるポーランド側は斯くて三分の一の土地を獨軍の蹂躙に委せて居る有樣で敗戰狀態となつたので、英佛は軍事顧問、技術家や飛行機を供給しポーランド援助に乘り出したもの、如くであるが大勢は既にドイツ側に有利と觀測せられる

獨ソ不可侵條約

ソ聯政府は九日豫備兵の一部召集令を下したが、各地から集つた兵隊はモスクワで列車を乘り換へ西部國境に送られてゐる模樣であり而して有事豫備兵の召集は獨ソ不可侵條約にも拘らず、ソ聯がドイツ軍のポーランド及ソ聯國境の進出をソ國が喜ばぬ證據だと見られる向政府は豫備兵の召集と同時に國內食糧品の徵發をも開始したと傳へられ、斯くてソ國い戰時態勢も漸く强化されんとしてゐるがタス通信社を通じて左の聲明を發表した

獨波戰が益々廣汎に亘り危險性の增大にかんがみソ國政府は國防强化のため豫備兵の部分的動員の措置を講じた、これら赤軍の豫備兵召集はウクライナ、白系ロシヤ、レニングラード、モスクワ、カリニン及オレルの各軍區區に實施された

イタリアの態度

イタリア諸新聞の論調を綜合して察するに、イタリアとしては漸次積極的のドイツ支持論に傾き、フランスを擊滅すべしとの聲が高いが十日政府はラヂオで次の如く態度を聲明した

一イタリアはドイツの對ポーランド要求に對しては同情を禁じ得ぬ、然し平和解決を希望し最後迄努力を惜まなかつた

二イタリアの中立は國際的孤立を意味しない

三イタリアの利害は地中海にあり、その平和維持に對しては絕大の關心を有する、ジブラルタルからボスフオラスに到る海面こそ生命線である

四イタリアはあらゆる事態に對應するため軍事的にも万全の準備を期すると共に國民福利の增進に努力を續ける

イギリスの態度

狂奔しつゝある。今や重慶

重慶に於て最も目立つのは戰時產業の復興で、ニユージーランド人レウル、アレなる者が共同組合運動を指揮し漸く持ち來つた手工業を復活し、從來等閑に附せられてゐた奧地の資源開發にとのことである。

風前の灯に等しいワルソー

首府ワルソーは

頑强なドイツ空陸軍に襲擊され今や風前の灯にも等しい運命に、最後一滴の血を見るまで踏じて一歩も讓らずと健氣に死守しつゝある、ポーランド國首府ワルソーは、その市七百米突を有するヴイスツラ河々岸に位し人口百二十五萬、郊外を合せて一萬二千四百三十五ヘクタールの廣さを擁する大都會で、河の左岸即ち市の西南部ウオラから南部地方モコトフへ、更に東南クゼルンタコフに向つて走るロヅヂ鐵道の起點がある、昨今は國防司令部の命令で市及び郊外住民は南部或は東南地方に通ずる凡ゆる道路に對し、堅固な障壁を設け敵軍の侵入に備へてゐるが、由來ワルソーは有名なポンチオスキ橋があり、このねば市內に進入する事が出來ない樣にされば敵軍が是處まで押し寄せたとしてもワルソー側で此の橋を落したら敵軍の侵入は容易な業ではないと云はれてゐる。

重慶最後の足掻き

發 員派特ゴールド紙ターニモ 國米

重慶に於て最も目立つのは戰時產業の復興で、ニユージーランド人レウル、アレなる者が共同組合運動を指揮し漸く持ち來つた手工業を復活し、從來等閑に附せられてゐた奧地の資源開發にとのことである。

孜々汲々たる有樣である。今や重慶附近四百哩は工業地帶と化し、多數の工場は政府財政的援助の下に活潑な作業を開始し、上海等より水路其の他の原始的運搬手段に依り困難を排して持ち來れる機械を以て緊急必要品の生產に忙殺されて居る。

三百五十名の熟練工と共に、上海より逃走せる鐵工所は能力一噸の電氣熔鑛爐二基を有し居り、新鐵工場も建設中であるが、河南鄭州より移れる豫備紡績工場は五萬二千錘を有し、三千五百キロワットの發電所を備へ、目下操業中のものも五千錘ある、殘餘も今年中には操業開始の見込である

重慶の燃料缺乏に鑑み、經濟部資源委員會が五月中設立せる植物油蒸溜工場は四川省の植物を利用して植物油三百噸より一ケ月にガソリン三萬ガロン、燈油一萬九千ガロンを生產し居り數ケ月前再建せられ、現在ホワリエン製鐵所の一部分を賣すホワシン機械工場は機關銃手擲彈、其の他の武器を製作し、一噸の電氣熔爐一基を備へて居る。ホワリエン製鋼所は經濟部の補助に係る新設工場の一つで客年十月より作業を開始し三十噸の爐床十吋の壓延機各一基の設備を有する。更に事變開始後上海より機械を移せる結果紡織工場はシエン生糸を使用して一日八千ヤードの生產高を上げつゝある。

孜々汲々たる有樣である。今や重慶附近四百哩は工業地帶と化し、多數の工場は政府財政的援助の下に活潑な作業を開始し、上海等より水路其の他の原始的運搬手段に依り困難を排して持ち來れる機械を以て緊急必要品の生產に忙殺されて居る。

三百五十名の熟練工と共に、上海より逃走せる鐵工所は能力一噸の電氣熔鑛爐二基を有し居り、新鐵工場も建設中であるが、河南鄭州より移れる豫備紡績工場は五萬二千錘を有し、三千五百キロワットの發電所を備へ、目下操業中のものも五千錘ある、殘餘も今年中には操業開始の見込である

重慶の燃料缺乏に鑑み、經濟部資源委員會が五月中設立せる植物油蒸溜工場は四川省の植物を利用して植物油三百噸より一ケ月にガソリン三萬ガロン、燈油一萬九千ガロンを生產し居り數ケ月前再建せられ、現在ホワリエン製鋼所の一部分を賣すホワシン機械工場は機關銃手擲彈、其の他の武器を製作し、一噸の電氣熔爐一基を備へて居る。ホワリエン製鋼所は經濟部の補助に係る新設工場の一つで客年十月より作業を開始し三十噸の爐床十吋の壓延機各一基の設備を有する。更に事變開始後上海より機械を移せる結果紡織工場はシエン生糸を使用して一日八千ヤードの生產高を上げつゝある。

孜々汲々たる有樣である。今や重慶

今週の話題 よもやま

眞空スイッチ

一馬力位の電氣モーターが週轉して居る際スイッチを切つてその週轉を止めるは實に小兒にも出來る程の易々たる事であるが、それは金屬パラヂウムを線質に使用して水素ベリウムに替へやうと云ふのである、若しそれが事實だとすれば長岡、ミーテの『水銀を金に』以來學界注意の焦點を作つて居る元素變換可能の上からも、事實上からも大問題が惹起するわけである、前者は曾て云はず後者に至つては不燃性の航空船用氣體としては米國が獨占して居るヘリウムの製造が自由となれば、軍事上にも空中輸送上にも一つの世界的大進步が有り得るわけだからである。

◇

パラヂウムは稀有の重い金屬であり、白金によく似た性質を持つて居るがその容積の千倍に充る水素を吸收すると云ふ不思議な性質を持つて居る、水素は斯樣に一エーカにも積を掩ふ事があるが、これを除くために最近加州の工業研究所で發明された眞空スイツチは、出來る限り空氣を拔き取つた一つの硝子管であつて、よく前記の樣なオイル・スイツチの用をなすが僅かに一吋の距離で完全に切れたとある、是を力に應じて大小自由に製作し得られる樣になつた曉には電氣工業界の助かる事は夥しいであらうと期待されて居る。

◇

そのスイツチの眞空度は十億分の一と稱せられて居るが絕對に電流を通す事がないさうである、實驗は南加州エヂソン會社の變電所を使つて試みたらしいが一、〇〇〇アムペア、四三、〇〇〇ヴオルトの電流が一時

Pag. de literatura

學藝欄

純粹日本文學の精神

最高峰に立つ上代の人々

（五）

菅原道眞

逆境は人間の眞實の價値を發揮する。悲境にあつて人間の眞實の心が現れ、偽り飾らざる魂の聲が聞かれるのである。

もし菅原道眞が、順調なといふよりも、むしろ當時の一般の習慣に從へば、その家から門地に比して、驚くべき異數の出世を見、長くも、宇多天皇の御信任を蒙り、右大臣にまで昇り、又、關白の地位にさへも就く事が出來て、そのまゝで一生を終つたとしたならばそれは道眞に取つて、甚だ幸福であつた事はいふまでもないが、しかも後代のわれ〳〵を今日の如く感激させる情においては、或は、聊か薄くなるものがあつたかも知れないのである。

併し、道眞が、その榮進の峠を殆ど頂きまで登りつくした時、そこには思ひ設けぬ、いや、それはむしろ人生行路においてさういふ異常の道を踏む者に取つては、しば〳〵經驗する事のある意外な陷穽が作られてゐた。さうして、晩年は、暗然たる流寓の中に、遙かなる謫居において一生を終へたのである。

憶良は、かつて『鄙に五年住まひつゝ、都の手ぶり』を忘れると歎いた、その筑紫の太宰府で、佗しく道眞は此の世を去つた。併しそれ故に、その筑紫における詩作は道眞の一生の間に作られた數多の作品の中でも最も哀切悲痛な眞情を傳へるものとして、不滅の光輝を放ち、永久に、讀む者の心に強い感動を與へずにはおかないのである。

道眞は藤原氏以外の家にあつて藤原氏と對抗した。道眞の母は大伴氏であつた大伴氏も亦、藤原氏に對抗して、家持の如きも、その爲めに、逆謀の汚名を蒙つた事が、一度ならずあつたのである。此の血筋を引く道眞が、遂に藤原氏の爲めに、犧牲の壇に昇された事は、却て、道眞を北野の神に祭らしめるに至つた、光榮ある戰の賜物である。

道眞の時代は、日本における大いなる文化の轉換期であつた。上代文化は漸く末期となり、平安時代の新文化は未だ興らず、たゞ海外の文化を取つて以て、自國の文化を如何に處置すべきか、苦惱を重ねてゐた時代であつた。それは明治時代のある時期にも似るものがあつた。かくて和歌は衰へ、漢詩のみひとり行はれてゐたのが、當時の文學界の情況であつた。

さういふ時代において、道眞はもとより漢學の家として、漢詩文の作に長じてゐた事は云ふまでもないが一方において、和歌の作にも大いに、努めたのである。それ故、道眞の作には、漢詩以外にも、和歌の作が多いが、たゞ殘念な事には、それは詩集の如く一個の歌集として殘される事がなかつた。

しかも道眞は、菅家萬葉集（一に新撰萬葉集といふ）の編纂をしてゐて、萬葉集以後、古今集編纂以前における、殆ど唯一の和歌の撰集としての貴重な記錄をとゞめてゐる。さうして、その和歌には又、漢詩を添へて、漢詩尊重の時代の風潮をも反映してゐるのであるが、道眞の歌道における功績は忘るべからざるものがある。

かやうに國風を重んじて次第に和歌の興隆する機運を作つた道眞はそれまで累次派遣せられて來た遣唐使について、最早支那に學ぶべき何ものもないとその無意義な事を進言し、その結果遣唐使は永く廢止せられる事となつた。これは實に道眞の一大識見を示すものであるとともに、日本的な創造精神の偉大な發現でなければならない。此の道眞の作と假話せられる菅家遺誡に『和魂漢才』なるが用ひられてゐるのも、道眞の感化と見るべきで、これ實に、彼が民族文學の正統たる所以である道眞の此の精神を離れて、彼の文學は存しない。

道眞は寂しく謫地に住居したが、これは天皇の御所置であるから、もとより此の事は、誰をも憾む事なく、たゞ運命に認從して配所の寂しい生活を續けたのである。さうして、一家離散したのであるが、たゞ、小さい男女の子だけは共に住む事を許されて、これがせめての慰めであつた。それについては、道眞が非常に感謝してゐて、ある公卿の子女が零落して博奕打門附となつてゐるに比し『思量せよ、汝の彼における天惠の甚だ寬恕なるを』とも歌つて、少男女を慰めてゐるのである。さうして此の詩に至つては、道眞が即ち、國家と共に生きる方法で、道眞はまさしくそれを教へてゐる。道眞の人格は、櫻よりも東風吹かば匂ひおこせよ梅の花あるじなしとて春な忘れそ

は、まさに道眞その人の人格を詠み表はしたものであるる。至誠は遂に、民族文學の中流を貫通する中心であらう。

蘇聯の猶太式外交

陰性より陽性へ變化

ロゾーフスキー著しく極積的挑發

日蘇紛擾解決の途如何？

【東京特報】ソ國の猶太式外交は、リトヴィーノフの退陣後ロゾーフスキーによつて繼續され、而も前者の陰謀的陰性外交は、後者の挑發的陽性外交に變化した

△

一說には近くモーロトフが專任外務人民委員長となり、人民委員會議々長の椅子は蘇國最高ソヴエート會議外交委員會委員長で、蘇國共產黨內の重鎭ジユダーノフの占める所となるであらうとも傳へられてゐるが然し蘇國の外交にはモーロトフが必要なのではない、モーロトフの外交識見あり外交手腕ならば、去る五月末の第三回蘇國最高ソヴエート會議に於ける彼の外交演說に見ても餘り辛辣なものでないことが窺はれる

△

蘇國の外交には何うしても特に猶太人が必要であつて、リトヴィーノフに代つてロゾフスキーが現れたのはそのためである。而もジユダーノフの積極的外交とリトヴィーノフの陰性外交とは勿論歩調が合はなかつたが、其處へ行くと長年プロフインテルンを指導して世界的に爆動挑發を事としてゐたロゾフスキーの外交は、ジユダーノフの外交とは恰度兩輪となり得るのである。

△

果して蘇國の外交はリトヴィーノフの退陣後、殊にロゾフスキーが外務人民委員長代理となつて以來豫期の如く著しく積極性と挑發性とを增大した。之の傾向は一方滿蒙國境に現はれると同時に他方カムチヤツカの漁場や北樺太に於ても現はれた。

△

蘇國の此のロゾフスキー外交は國境方面にだけは實力により一時的に解決されたが、カムチヤツカ北樺太に於てはまだ相變らず跳梁を極め、反省する樣子もない。

△

去る一日東鄕駐ソ大使はモスクワに於てロゾフスキーと會見し前後四時間半に亘り漁業問題並に北樺太における石油石炭の利權問題等に就き蘇國政府の相次ぐ不當措置に對し嚴重抗議して彼の反省を求めたが、相手のロゾフスキーは何等誠意を示さぬのみか、却て東京に於ける蘇國大使館員が差別待遇を受けてゐるのは不都合であるなど、逆襲して來た。盜人猛々しとは正にこの事である。

△

漁業問題は今春辛ふじて暫定漁業條約が繼まり、漸く皇太神宮の漁場への渡航を許さず、そのため曾祉の業務遂行を不可能ならしめ、東部船の寄港地を指定せず、會社の事業を故意に妨害し、條約に對する不法解釋により事毎に最高罰金を課しつゝあるなど、條約の條文に據る抗議は全く無益である。

△

石炭利權については蘇國側は去る五月十五日までに蘇國勞働者の傭入を許すべき義務を有するにも拘らず、今日に至るも此の許可を與へぬのみか我方の再三の申入れを無視して未解決のまゝ之を放置してゐる。

△

石油利權に就いては蘇國側は邦人曾社側が蘇國勞働團體との契約賃銀を一律に一割五分も引上げたにも拘らず、勞働者の待遇その他に就き種々言ひがかりをつけ、所要物資を十分供給しなかつたのは團體契約違反であると云ふ理由の下に石油會社に對しては約三十萬留、石炭會社に對しては約四十万留といふ巨額の賠償金支拂を命じて不法裁判を以て右賠償金を支拂はなければ强制手段を以て會社の財產を差押へる旨通達したが

△

此の惡辣極まる遣口には何う見ても猶太式である。加之、蘇國の裁判が如何に敵本主義のものであるかといふことは、前司法人民委員長クルイレンコと前檢事總長ウイシンスキイとの裁判に關する論戰に見ても明かである。前者は蘇國の裁判なるものに共產黨本來の解釋を與へ、法律よりも共產黨の政策を重視して裁判を行ふべきものだと說いてゐるに對し、ウイシンスキイは對內外政策の立場から法律至上主義を說いた

△

然し、ソ國は表面如何に法律至上主義を說いて法治國の體面を裝らんとしても其の裏面に於いては獨裁至上主義、共產黨萬能主義を實行してゐる。從つてソ國の裁判が公平なものではなくして、共產黨の政策貫徹のための獨裁機關である事は極めて明白であつて、何を以つても之を被ひ隱すことは出來ない。

武力衝突を行ひながら他方で條約違反を叫ぶ

矛盾變態極まる現在の蘇國

我國が全國力を擧げて赤化將勢力を支那から驅逐し東亞新秩序の建設に忙殺されてゐるのを奇貨とし、又極東に於ける日英の紛爭激化を好機となし、武力を以て國境を侵犯し、獨裁力を以て條約を廢棄せんとするが如き、橫着も亦甚だしと云はなければならない。

△

一體今日の日蘇關係ぐらい變態的なものはない。一擊に對抗するためには實力を用ゆるの外途がないではないか。既に滿蒙國境に於ては實力を以て蘇國軍が一兵も殘らず擊滅され又は國境外に驅逐されてしまつたカムチヤツカ及び北樺太に於ける我が神聖なる利權を擁護するためにも最早實力を行使するの外はない。

△

我が大和魂は、支那四百余州を出づることの出來ないやうな微少なものではない。必要とあれば大和魂は何時でも全世界を覆ふだけの伸張力を有する。今は最早此の偉大なる伸張力をソ國の猶太人や其の傀儡共產黨員共に十分玩味せしめてもよい時である。

月明の夜空に重慶爆撃

軍事施設に巨彈

【東京發】海軍航空隊は四日拂曉重慶空襲を行ひ敵飛行場、政府各機關を粉碎した。

【○○基地發】抗戰首都重慶の徹底粉碎の手を緩めぬ我が海軍航空隊は卅一日夜折柄の滿月の月光を浴びて大擧重慶空襲が敢行し、市街並びに東郊の廣陽飛行場に猛爆を加へ崩壞に喘ぐ敵抗戰陣營に大動搖を與へたこの夜勇敢田中少佐の指揮する巨鷲群は二隊に分れ山岳地帶特有の濃密な靄と斷雲の中を夜半の重慶上空に進入し、竹村太尉の指揮する一隊は直ちに市街の軍事施設に對し巨彈の雨を浴びせかけた。我が數次の空襲のものだつた——下情に通じてゐるだけに、能登守は是をよく知つてゐた——邪法の爲に四民が斯の苦るしみをするのだ、織田、豐臣そして當德川家、つねに正法を唐げてきた決果だ！

△

蔣政權では財政困難の爲め英國にすがり聯起の努力を試みつゝあるが、蔣財政の中樞中央銀行はこの程英國紙幣印刷會社に對し紙幣十億枚以上の印刷方注文を發ゝたる事が判明した。紙幣の額面總額及び種類は發表されないが、この注文をうけた二會社の中一方は余り多量の注文に臨時雇ひの職工四百名を

蔣政權倫敦で紙幣を印刷

蔣政權は財政困難の爲め英國にすがり聯起の努力を試みつゝあるが、蔣財政の中樞中央銀行はこの程英國紙幣印刷會社に對し紙幣十億枚以上の印刷方注文を發ゝたる事が判明した。紙幣の額面總額及び種類は發表されないが、この注文をうけた二會社の中一方は余り多量の注文に臨時雇ひの職工四百名を

ピルスヅキー元帥死後の……ポーランド國

……波獨不可侵條約は一片の反古

毎年五月十二日は、復活閣（國民々主黨及びピアスト農民黨聯立右黨內閣）の爲す所に憤慨し、決然起つて時を遷さず一味をワルシヨウ市郊外レムベルトフの野に糾合し、髮で勢揃ひして立つて政界の花形たる好ます、寧ろ幕內に在つて畫策し、他を操らしむる人であつたと謂へる、それから彼の健康も亦政界の活動を許さなかつた。（未完）

波蘭の歷史に特筆大書さるべき日柄である。今より十三年前、一九二六年五月十二日は、其日まで軍人として現役を退き、國家の元勳國民の大恩人としては政界進軍を初めたる當日であつた。かくて翌々十四日には伊首相、ヒトラー獨總統、ムツソリニ元帥が、ウキートス內ヨウ市隨つて殆んど全部波蘭の主人公となり了ふせたのであつた。此の運動の張本人であつたピルスヅキー元帥が、日もあらうに此の史的記念の當日と云ふに、天命を終つて逝去した事は不思議な運命の皮肉と謂はざるを得ない。同元帥の死後略傳は、既にこれまで各種の新聞雜誌により報ぜられてあるから、爰に省くとして、彼ピルスヅキーが、歐洲の獨裁執政官と稱せられてゐる、ムツソリニ元帥と、心から笑ふ三人だ晴晴と。

（完）

社告

野崎彌太郎

右弊社々員ノロエステ線愛讀者各位を訪問致させ候間何卒よろしく御配慮下され度御願申上げ候

南米新報社

移轉

（四三）

當方泌尿科珍療所を左記へ移轉しましたからお知らせ致します。

ドトール、オタシリオ　グアルベルト

Dr. Octacilio Gualberto
R. 7 de Abril 235-5° and. apto. 502 - Tel. 4-7229

DR. MAURO DE BARROS

心臟及腎臟、病血壓亢進、動脈硬化症、偏頭痛、濕疹

●診療時間午后四時より六時まで

●診療所……ルア・バロン・デ・パラナピヤカーバ二五番三階

●自宅電話二一五二〇

●自宅電一〇三八九

（二四）

シヤカラ

聖市及アチバイア自動車道に面したシヤカラ十五アルケール、ラ、ンジヤ二千本梨、リモン等植付あり住宅二戶其他附屬建物附で賣却します御照會は左記へ St. BENED V. MORAES ATIBAIA

（三四）

ASMA

ぜんそく專門

小兒及大人の喘息は如何なる難病も全治す Dr. Paulo T. B. Monteiro R. B. de Itapetininga-50 6° and. Sala 613

●診察は午前十時から十二時迄午后四時から六時迄

（三四四）

F. RUEGGER & FILHOS

ARARAS - EST. DE S. PAULO

●ラバドール（2,00×1,00）能力一時間一四〇〇キロ　値段一コント五百ミル

●ビカドール（ラスバ用）能力一時間一四〇〇キロ　値段五百ミル

●ブレンサ　能力一時間四〇〇〇磅　値段九コントス

●モイーニヨ、マルテーロ能力一時間一〇〇〇キロ　値段四コントス

●ベネイロ、ロタテーバ　能力一時間十俵　値段八コントス

●セツカドール　能力十八時間に二千五〇〇キロ　値段十二コントス

尙詳細は直接當製作所へお問合せ下さらば喜んで御返事申上げます。

マンヂオカ精粉機

（四二）

棉花好條件ニテ購入致シマス

間崎コンパニヤ

飯田

プロミツソン
電話　三一番

MACHINA S. PAULO

（六四）

在伯同胞三十年の移民青史大觀

中山夢浪氏廿年の血淚の大作

ブラジル情景大寫眞帖

御歸朝ミヤゲの最高峯毋國知友學校への記念品同胞皆樣の記念愛藏品に

聖市裁判所前

豐吉商店

Caixa Postal 23 — S. Paulo

料亭靑柳

聖市　ルア　タバチンゲーラ　五六

電話　二一一九四八番

旅館八州（ヤシマ）

聖市　コンセレイロ　フルタード七〇

電話　二一六五八三番

（元上地旅館跡）

御泊りは親切迅速な
聖市での
御食事

雇

ひ入れ、しかも注文されただけの紙幣を印刷するに向ふ一ケ年を要するといふ、今一方の會社ではすでに契約だけの紙幣は印刷を完了して居るが、これ等紙幣は英國より諸種のルートを通じて蔣政權に送られる筈で紙幣の原版は英國に保存される事になつて居る。

彼には父、人を魅する愛嬌が具はつてゐたと傳はる。それは彼が人との應對振りと趣味とが簡素質朴で虛飾虛榮を嫌忌したのと、機に觸れ自己の出處進退を明にし毫末の私心を疑はれざる所に將師として部下の悅服を博したものと解釋し得べきか。要するに、彼は芝面に

Dr. Alarico Franco Caiuby ADVOGADO E Tsuguo Kishimoto TRADUTOR PUBLICO JURAMENTADO

Rua Jose Bonifacio. 233
(3 and Salas 310-311 e 312)
Caixa Postal. 1124 Tel 2-1137
S. PAULO

鑑識手帖　歸化　遺產相續　營業登錄
刑事民事　警察事項　內外諸官廳手續等
凡て法律事務に關し誠意を以て御相談に應ず

カユビー　キシモト　法律事務所

元司法長官　辯護士
ドットール　アラリコ・カユビー
公證翻譯人　岸本次男

●事務所　ルア　三階　三一〇　三一一　三一二號室
電話　二一一三七
郵函　一一二四
●自宅　電話　三一九二四七

(PAGINA DE NOTICIAS DIVERSAS)

一億五千萬弗の大投資
紐育萬國博覽會
見込違ひで當事者頭痛鉢巻き
入場豫定人員六千萬

【紐育特報】萬國大博覽會なる物は大規模の『見世物』と稱せられる部類に屬するとは云へ、自國の政府首腦部を通じて外國政府及び個人の參加を求めるのであるから、孰れの國でも形式としては半官半民的の資格を有し、從て其成功と失敗とは相當問題となるのだが、從來アメリカで主催した萬國大博覽會若くは世界大博覽會が財政的に辻褄の合つた例は殆どない、英佛も同樣だと傳へられて居るが、殊に千九百四、五年の聖路易博覽會以後ジエームスタウン、ポートランドのアラスカ・ユーコン大博、千九百二十六年の費府百五十年大博など孰れも其末路は蕭條たるものであつた。其主因としては大博當局の誤算關係官民のグラフト政策、開設位置の不適當などを算へ上げられるであらうが、千九百三十三、四年の市俄古大博は收支も償ひ、世評はい、方であつたとされて居る。

□——□

然るに今回の『明日の世界』を標榜する紐育萬國博覽會は過去に於ける大小博覽會とは桁違ひの計畫であると稱せられ、利益を目的とせざる公益事業として空前の大伽藍を建設したのであるから、凡ゆる專門的智識と經驗を聚めて歷史的記錄を作らうとの意氣込みで大膽であり且つ細心な計劃を樹てたと謂はれて居る。然るにも拘はらず、四月三十日開會せる以來昨今までの入場者は一日平均十七万五千人、天候のよしあしを問はず、入場者は九万人を下つたことなく、十七万五千人と云へば、オハイヨ州のヤングスタウン市、カネチカツト州のハアトホード市乃至テキサス州のフオートウオース市の各人口と匹敵する數ではある。

□——□

しかしながら萬博當局は勿論、鐵道、旅館其他專門業者の豫期せる入場者數に較べると甚だ失望的であることで、總入場者數約千五百万人、此內入場料を支拂つたものが千百万人、此平均一日十三万五千人、であるから、若し十月三十一日まで此趨勢を繼續すれば總入場者は三千二百四十一万五千三百九十四人となるべく、萬博の入場者豫定人員六千万人に對し、半數に達せざる結果となるであらう。一億五千五百万弗の投資を支配する當局が焦慮するのも强ち無理ではあるまい、萬博が千九百三十六年社債を發出した當時、三樣の見積りが提案された。第一は一年（十二ケ月）間に最少限度の入場者を四千万人として損失額三百九十四万一千四百四十五弗見當とするもの、第二は二年間の開期として最初の二年間の入場者は四千万人、次の一年間に二千四百万人としで結局利剩余金八百二十六万九千五百五十五弗を計上した。第三は開期を一ケ年とし、入場者五千万人と見積り、決算に於て一百二万四千百五十八弗の剩余金を得べしと云ふのであつた。

□——□

以上の豫測は萬博の開期一ケ年前に豫見を試みた當時凡て上向きに計算されるに至つた。最初一億二千五百万弗の支出豫算は一億五千五百万弗に增額された。諸外國及び各州の萬博參加數が以前より增加され產業方面の出品者も、爭つて出品權利を要求し來つたので此の擴大氣運は一日平均の入場者を概して三十万人と見積ること、なつた。夫れできへ、當時の氣分としてはまだ保守的であるとされた程であつた。若しこの期待通りに入場者があるとすれば、過去に於ける如何なる萬博にも遙に超越することゝなり、千九百三十三、四年の市俄古萬博二年間の合計を突破するのみならず千九百年の巴里大博を凌駕するに至そであらうと觀測された。即ち千八百九十一年以來各國に於ける萬博入場者を示せば左の如し。

（單位千）

一八五一年倫敦六、〇三〇	一九〇〇年巴里　三九、〇〇〇
一八五三年紐育　二五〇	一九〇四年聖路易　一九、六九四
一八七六年費府九、六八二	一九一五年桑港　一八、八七一
一八八九年巳里　三二、三五〇	一九二四年英國　二七、一〇二
	一九二六年費府六、四〇八
	一九三三、四年市俄古　三八、六三四
	一九三五、六年サンジエゴ　六、九七七
	一九三六年グラスゴー　八、六五七
	一九三六、七年クリーブランド七、四七九

□——□

萬博當局及び信賴し得る觀測者の判斷に依れば、開會以來昨今までの入場者は中以上の階級が多く、或外國のバビリオン若くは料理店の如きは非常に繁昌しており、一般入場者の服裝などを見てもなか〳〵立派な男女が目に止まるときへ許される位であるが、中以下の收入の少ない階級、假令ば衣服工場の女工とか、タキシーの運轉手とか、昇降機操縱者とか及び其家族とかを吸收する方面に成功して居ないとのことである。一例を擧げれば獨立祭當日の如き、二十一万四千五百二十四人の七十五仙入場料支拂者はあつたにせよ、白銅一個で往かれるコネには百万人以上の大群集が集まつて居たとのことである。亦テニス、ゴルフ、水泳の如き自分で樂しむことの出來る場所へは往くが、單に見物する丈けでは興味がないと云ふのも相當多數ありどうも平均三對一の數に接近しないのである、擾音すれば紐育州以外の見物を吸收するのに成功して居ぬことである、是れには一般經濟局及び參加國等の初志を達成せしめたいものであると言はれてゐる。

青年純眞の叫び
アヴアルパライゾ青年聯盟

【北西線ヴアルパライゾ本社特報】汎ヴアルパライゾ青年聯盟では本月七日伯國獨立紀念日を視すると同時に、過般日本人青少年に賜はりし勅語奉戴式を兼ねて青年聯盟發會式後、辯論大會を開催した當市最初の催しに加ふるに好天候と云ふので開會前より聽衆はひし〳〵と會場なる昭和小學校に押しかけた

豫　定の正午よりプログラムは進められ一時より熱辯の幕は落され、開口一番時局を說くあり或は血の出るやうな體驗を述べるもの、邦語敎育問題に對する切實なる叫びを揚げるもの現在の日本より世界の情勢と地位を論ずるもの等、何れも言ひ句々心奧無邪氣な絶叫ならざるはなかつた、特に聽衆を感動せしめた事は辯士中廿歲前の第二世が過半數であつたこと、そして各々說くところ誠に顧の自ら下る思ひあらしめたことである、又當日萬綠叢中の紅一点林八代子さんは第二世であるが在伯二世

女
性の意氣を示して末頼もしさを聞かせて呉れたるは嬉しい

當日は先づ勅語奉戴式に始まり青年聯盟發會式に續いて辯論大會に移つた、出演辯士十五名で演題と辯士は次の如くであつた

成功（畠山）移民史を顧て（畑野）平和の戰士（町田）この鍬（山田榮）邦語敎育（藤澤）宗敎と青年（中島）伯國の礎石たらん（山田）敎育非常時（內山）新世界（齊藤）迷路に立つ（山村）銃後青年（伊藤）青木秀男）第二世の覺悟（林八代子）

今次大會の特色は審査員も設けず等級も採点もしなかつた事、即ち採点に依り優位を爭ふのでなく互に胸奧の叫びを揚げるのが目的だからであつた。

モチアナでも
青年雄辯大會

モヂアナ線イツベラーバでも青年會が主催し去月廿六日第一回モヂアナ青年雄辯大會を擧行盛會を極めたが入選者は中川、瀧浪、鹽田の三君であつたと。

青年修養道場
向上會で
第一回講習會

市內向上會では青少年の精神的又肉體的向上發達に努め既に業績の着々として見るべきものがあるが、本月十七日より廿七日まで十日間岡出英定氏の指導を受け同會館にて講習會を開催し早起、靜坐、體操、讀書等青少年修養に必要なる講習會を行ふ、會費十二ミルで何誰の參加も歡迎すると。

近海航海中の
英獨船危險

【バイア州サルバドール】當港英人經營のカロリック商會では目下入港中のドイツ汽船デルフイノ號に對し給油を拒絶した、又九月日入港の英國汽船サンプレス號は船体一面真ツ黑に塗りつぶしてゐたが、バイア州近海でドイツ潛航艇につけられたと言はれ、目下の處何時出帆するか不明である

【リオ發】パナマより入港せるカリオツポ號はその乘組員の全部がドイツ人なるため、航海の不安を感じ今次歐洲戰が濟むまで乘組員はりオに上陸假滯在することゝなり、その代りとしてブラジル人及アメリカ人船員を乘り組ましめ近く出帆する筈である

戰爭を口實に
不正利得を貪る

【リオ發】リオ州では今次歐洲戰を口實として商品値段を勝手に釣り上げ、暴利をむさぼる不德漢の取締を嚴重に監視して居るが、數日前ニテロイ警察の手で同市內『パルセロス藥店』の支配人番頭を拘引留置し取調べ中である

同藥店では資品値段を俄に三割四割値上げしたと稱せられ指導下にあるソロ線アグードス第二モンソン富士青年團では本月三日總會を開き役員改選と共に柔道部新設案を可決した。

▽……ソロ線切つての經濟的日本人成功者として知られたモンソンの平田滿氏長男滿雄さんは今度今澤藤三郎、平井格次兩氏媒酌の下に市內でも堅實な邦人チンツラリヤ主として定評ある山口縣人河口善右エ門氏長女エミ子さんと婚約成り六日市內青柳亭で披露の宴を張つたが花嫁さんは約一ケ年リオの大使館小峯書記官方で禮儀作法を見習つた才媛だと。

▽……パウルー領事館では早尾領事リオ大使館へ榮轉したので當分書記生石原氏が事務代理をするので諸願屆書は『事務代理石原直憲殿』と記されたいと。

店を讓る

セツコス・モリヤードスの店で金物も賣つてゐますが都合で捨値で讓ります理由はお出の節說明、但し仲介人はお斷り直接應相談

家賃五百ミルで完全な住宅が附いてゐます

AV. BRIG. LUIZ ANTONIO 3450
S. PAULO

尋人
京都府人　鹽見喜久治

右者在パラグアスー驛黑岩商店勤務中なりし處今回同商店より參拾コントスかい帶行衛不明となりたる趣なり仍而右者の現住所御承知若くは心當りある向は至急當館迄御一報相煩度し

昭和拾四年九月六日
在サンパウロ
帝國總領事館

祖國の急座視に忍びず
蹶起した前英皇帝
流石に熱血兒ウインザー公

全世界に繼の皇帝として話題を投げられた前イギリス皇帝ウインザー公は南フランスのカンヌに之れまで悠々閑日月を樂まれてゐたが祖國の急を聞き一イギリス國民として國難に殉ずるため、その覺悟をジョージ陛下に通達して歸國許可を要請されてゐたが、五日陸下の特使がカンヌに飛來してウインザー公と懇談を遂げた結果、公夫妻は八日午后九時四十五分カンヌ發パリ經由にて四年振りの外遊からロンドンへ歸還の途に就かれた

御出發に先き立ちてウインザー公夫妻の秘書は次の如く語つた由

祖國の急を聞いて此の上はぢつとして居られずとのお心持ちから、ウインザー公夫妻は八日歸國遊さる、こと、なつた、歸國の上はウインザー公は直ちに重要軍務に服される豫定で、夫人も亦赤十字篤志看護婦として傷病兵の看護に當られる筈であります。

（寫眞はウインザー公及び夫人）

歸國御挨拶

私共夫婦今回多年の宿望母國訪問を思ひ立ち非常時にて何かと不自由の折柄大方各位の御同情を賜はり、特別の御後援を忝して玆に目的達成の御禮を厚く申上候

短時日の準備期間內に留守主任長男滿雄の結婚相談起り、聖市在住の親友平井格次君並に今澤藤三郎老の媒介に依り、聖市河口善右エ門殿長女ゑみ子嬢と婚約成立出發直前に際し、各位へ何等御沙汰の時間なき爲め、出發に於て不取敢婚禮儀式擧行致し候次第何れ明春草々歸宅の上、改めて御披露申上可く候間何卒御無禮の段幾重にも御仁免被下度お願申上候

就ては私共不在中は世古に馴れざる青年達の事故平素の御愛顧を以て、萬事お心添へお引立の程伏而奉願上候先は右乍略儀以紙上御挨拶申上度如此御座候

終りに各位の御健祥祈上候

昭和十四年九月八日

アルゼンチナ丸にて

平田滿イソノ

アヴアレー
セ・セザール　各地
モンソン

在住者御一同樣

"AGENCIA APOLLO"

Rua Santa Ephigenia, 517
Phone 4-2230

鑑識手帖モデル一九、外國人登錄其他歸化、市民權獲得（九十日以內）

司法省に停滯せる歸化願、結婚屆、呼寄証明、運轉手鑑札、借金取立、右一切を

デレガシアの直ぐ側の『**アゼンシア・アポロ**』にて親切、且つ迅速に御世話致します

但し手數料は實費だけしか申受けません安心してお任かせ願ひます。（四二）

歐洲戰の余波

十二日リオ市コレイオダノイテ紙の報によれば、ドイツ人ザンガン及アデンセルと稱する二名の者、ひそかにリオ海岸重要地帶を調査し寫眞を撮り、或は地圖を作製したる現場をリオ州保安課員に發見されたので直ちに取押へられ目下嚴重取調べを受けてゐるがスパイの嫌疑濃厚であると

△

不德商人の買占め、暴利は戰時の附きものであるが之れがために迷惑するのは罪もない一般我々民衆だ、聯邦政府當局では此点を憂慮し不正商人の摑利を防ぐため、公定物價表を作製し主要生活物資の實價を一定せしめやうと目下大藏省農畜兩相に於て研究中である

△

ドイツ潛航艇の跳梁は益々激しく、十一日迄に撃沈されたもの左の如し

バウリスタ	一五四
ノロエステ	三七、五
聖市　近郊	二一、五
聖西　聯合	一四
ソロカバナ	七
南聖　聯合	五
北パラナー	四
バウリスタ	一〇七
ノロエステ	八一
聖市　聯合	四五
ソロカバナ	一六
南聖　聯合	九
北パラナー	四

記者の雜記帳

▽……南大洲州では九日州政府より諸新聞に注意書を揭載し、今次の歐洲戰に對する是非の公衆的議論を行ふべからざる旨を發表したが、ドイツ人及びその子孫の多い土地柄至極當然の處置だと言はれてゐる。

▽……此の前の歐洲大戰にフランス軍に從ひ參加して拔群の軍功を樹て佛國政府から十字章を貰つた日本人小池勇雄君は目下東京に在るが佛軍で若し再び自分が必要ならば何時でも從軍する旨を發表した。

▽……氣の長いイギリス軍は八日九日の二日に亘りドイツ國の上空高く飛行機を飛翔せしめ第五回目の『平和宣傳ビラ』を撒布した

▽……日伯產業組合中央會主催の第三回棉作者會議は六日市內日本クラブに開催領事官勸業部館木事務館初め市師三名に主催者側から脇山、堀、下元、小倉、石

Dr. Carlos de Alvila Pires
胃病、十二指腸、肝臟、梅毒　（四）
右諸病專門醫
ルア・ベンジ・ヤミン
コンスタンチ七七
四階
電話　二一八八三
五一六三五九

告示
外國人登錄並ニ鑑識手帖取得ニ關スル件

本件ニ關シテハ既ニ當廳告示並ニ新聞記事等ノ形式ヲ以テ屢々之カ周知方取計置キタルカ尙右登錄手續同費用等ニ關シ當館ニ來照スル向多々有之ヲ以テ更ニ右要點ヲ左ニ摘記スルニ付可然御了知相成樣致度記

一、滿十八才以上六十歲以下ノ外國人ハ男女ヲ問ハス各別ニ登錄ノ要アリ

二、**サンパウロ、サントス**以外ノ一般奧地在留者ハ其所轄警察署ニ出頭シ備付ノ登錄申請用紙二通ニ所要事項（姓名、住所、職業、渡伯年月日、渡伯船名等）記入ノ上旅券ヲ添付登錄ヲ出願スヘシ旅券ヲ所持セサルモノハ領事館ヨリ給ノ『備文事實證明書』（下附手數料一件五ミル）ヲ添付スヘシ

三、右登錄受理濟ノ際ハ旅券ハ返還サルヘク同時ニ『正規滯在證明書』（Certidão de Permanencia Legal）ヲ下附サルモノニ付注意ノリタシ

四、手續費用トシテハ申請書ニ貼付ヲ要スル印紙代二、四〇〇レイス（二件分）程度ニシテ此ノ外前記『正規滯在證明書』下付料トシテ一件即チ一人當リ三ミル納入ノ要アリ法規上ノ所用費用ハ前記ノ如クナルモ奧地等ニ於テ交通ノ不便其他ニヨリ特ニ所轄警察側ニテ出張其他ノ方法ニヨリ登錄者ノ便宜ヲ計ル如キ場合ニハ其警察署限リノ事馬賃實費ヲ計ル前記以外ニ要求サル事アリ得ヘキモ右ハ本件登錄規定ノ費用ニ非サルヲ以テ右ノ場合ニハ各地警察當局ト豫メ充分ナル諒解ヲ遂ケ置キ不必要ナル出費ト誤解等ヲ避ケル要アルヘシ而シテ右ニ對シテハ各地日本人會其他ノ團体ニ於テ各管內邦人ノ分ヲ取纏メテ之ヲ行フコト便宜ナルヘシ

五、**サンパウロ、サントス**（所謂都會地）在留ノ外國人ハ右登錄ノ外『外國人用鑑識手帖』ヲ取得スル要アリ而シテ右二手續ハ相關聯シ居リテ先ツ警察ノ鑑識課（Gabinete de Investigaçao）ニ出頭シ鑑識手帖下附申請書二通ニ所要事項（姓名、生年月日、職業、宗敎、住所等）ヲ記入ノ上願書發給ノ葡文事實證明書（又ハ旅券繙譯）ヲ添付出願スルヲ要ス願書受理ト同時ニ鑑識手續（指紋、寫眞、撮影等）ヲ了セルモノハ受付濟票ヲ交付サル其後約一、四週間內ニ外國人取締課（Delegacia de Fiscalizaçao ds Estrangeiros）ニ出頭シ登錄ヲ申請ノ上右受付濟票ト引換ニ鑑識手帖ヲ下付サルモノナルカ其費用ハ大体六〇ミル內外ナリ

六、登錄期間ハ本月十二月二十一日迄ニシテ或ハ右期間ノ延長アルヤモ知レサルモ未タ決定セス右告示ス

昭和十四年八月三十日

在**サンパウロ**帝國總領事館

聖市附近養鷄場を貸す

最も近代的に設計された養鷄場目下約一千羽飼育中、必要なる設備一切完備し孵化室は月一千羽以上のピントに適す又ピント用温室バルケ、千五百羽以上飼育可能のガリネイロの外電力モーニヨ（フバ、キレラ等精製用）整備。

●場所はモジイ・ダス・クルーゼス驛に近い果樹園の眞ん中です

●條件は出來るだけ借主の便宜をはかり生產品竝上高に應ずる事にします

●養鷄に經驗有る人に限る無經驗者の相談には應じません

●希望者には必ず身元証明書（レフエレンシア）を要求します、照會は左記へ

"GRANJA AVICULA"
CAIXA POSTAL, 539
S. PAULO

●御返事は葡文でします

GRANJA AVICULA

Redação e Administração
R. Pires da Motta, 838
Tel: 7-1614

NAMBEI SHIMPO

(SEMANARIO SUL AMERICANO)

Director: J. V. França
Proprietario:
Paulo Iquenaga

FUNDADO EM 1928 | S. PAULO——QUINTA-FEIRA, 14 DE SETEMBRO DE 1939 | SEMANARIO, No. B-252

A GUERRA EUROPÉA E A INQUIETAÇÃO MUNDIAL

ESTÃO EXALTADOS TODOS AQUELES QUE, SEJA COMO FOR, DESEJAM A PAZ

Por longo tempo a Europa esteve coberta de nuvens negras pelas preocupações da guerra.

A Inglaterra e França estavam se esforçando para fazer a aliança militar com a U. R.S.S. afim de intervir a ambição de imperealismo do Reich. Mas a U. R. S. S. concluiu um pacto de não agressão. Teuto-Sovietica. Este pacto causou grande surpresa, não somente à Italia e ao Japão como tambem à Inglaterra e à França. Naturalmente essa converção repentina da Alemanha, foi feita com o fim de provocar guerra á Polonia, como politica do oportunismo; mas tal áto, é uma traição, ao eixo Tokio-Roma-Berlim.

Causou desanimo á Italia, velha e ingenua companheira; o Japão que até o chamam «um pais bom demais», pois é muito pontual para cumprir a promessa internacional, tambem foi imensamente surprêndido.

Pode-se dizer que a gente se exaltará pela infidelidade dos intimos amigos em que se lhe dava suficiente confiança; é uma cousa muito natural ao sentimento humano; do mesmo modo, a relação dos países deve ser igual. A atitude que o Reich mostrou ao Japão e à Italia resultou a exaltação desses dois países.

O comunismo é o inimigo da sociedade humana, para o pacto da defesa contra o comunismo, porem, um dos membros da aliança mudou-se inesperadamente para o lado deste rival, a respeito deste acontecimento o sr. Fritch che-fe do Departamento de Informações do Governo do Reich, pronunciou as seguintes palavras para o corpo de jornalistas: O tratado da defesa contra o comunismo é uma promessa espiritual, e o pacto de não-agressão é apenas uma conversão entre dois países. Entretanto qualquer pro-messa internacional devem ser espiritual, portanto, conforme as palavras de Fritch, vê-se que na Alemanha não ha verdadeira fé internacional pe-la justiça. A origem da politica exterior do Reich é um egoismo, dizendo na ponta da lingua, palavras dôces, e não se sabe se está fixa na sua idéa; assim o Fritch deixou esclarecer casualmente a sua ambição.

* * *

Por outro lado, a U. R.S.S. apertou as mãos com o tal pais que não tem sinceridade, e deu o golpe á França e á Inglaterra.

Desde antes a verdadeira diplomatica da Russia, sendo para seu proveito, abandonava-se a qualquer momento de seu amigo. A Russia é muito ambiciosa; diz sempre ser anti-invasora, mas, en quanto isso ella provoca guerra mundial. Enfim o pacto de não agressão Teuto-Sovietica, parece estar esquecido da fedelidade. Por esse motivo a Alleman ha fez com que a Italia diminuisse o interesse de si mesmo, e ao mesmo tempo nós japoneses tambem perdemos consideravelmente a sympatia para com a Allemanha. Apesar de ser ella a unica culpada, deve ter sofrido muita perda de recursos nesta guerra Européa.

* * *

A respeito da Allemanha e Polonia, não sabem entrar em accordo mutuamente, insistindo suas exigencias sobre Dantzig e o Corredor. Ha quatro anos atrás, 3 de Junho de 1935, o snr. Beck, ministro do Exterior da Polonia, visitou oficialmente Berlim, on de fora recebido pelo Presidente Hitler e outras personalidades de destaque. Foi ahi que após um magnifico banquete, publicaram as seguintes proclamações, em nome de ambos os representantes:—

O snr. Beck e Pres, Hitler conversaram sobre as questões em geral na Europa, particularmente assuntos interessados a ambos. Trocaram os pontos de vista e felizmente chegaram a um perfeito acordo e novamente confirmaram a declaração coletiva de 26-1-1931. Ambos os governos daqui para o futuro sustentará o contacto mais proximo como nações amigas e colaborémos afim de manter a paz Européa. Alem disso, nesta conversação, os srs. Hitler e Beck, mais uma vez confirmaram o pacto de não-agressão e entre isso de novo conferenciaram sobre um plano de mandar construir alguns vasos de guerra por parte da Polonia e fazer o tratado de Localno.

* * *

Em comparação disto sentimos agora uma profunda comoção, ao olhar a presente situação Européa, em que apenas 4 anos atrás tinham tão boas relações entre si..

Na presente questão da Polonia, a Grã-Bretanha e a França, tinham até o ultimo momento, bôas esperanças, em virtude de ver uma decisão de paz; enquanto isso, a Italia, unica é sincera amiga da Allemanha, tambem colaborava para manter a paz. Alem disso, por outra parte, o Papa de Roma e o Presidente Roosevelt colaboravam para fazer intervenção, mas todos esses empenhos foram inuteis à tenacidade de Hitler.

Desta maneira, a pendencia da Europa ficou cada vez peor, sendo batizado pelo fogo infernal, ferindo e massacrando os filhos inocentes, e o mundo inteiro, atemorisando-se com tal sofrimento cruel.

A mesma situação, levará até a uma terceira nação, que nada tem a ver com este caso, mal influencia economica ameaçando suas vidas. É caso muito natural que indignamente a Grã-Bretanha e França se levantem com suas armas. Causou-nos grande sympatia a palavra do Imperador da Grã-Bretanha que se explicava pelo radio sobre a declaração da guerra.

(Tradução do comentario desta folha)

Exterminação ao Jogo

Semanas atrás o sr. Katayama, tesoureiro beneficiencia japonesa, suicidou-se inesperadamente no apartamento onde residia. O motivo foi do Jogo de Azar. Indo a Santos e frequentando os clubes absorveu-se no Jogo, e para mais o seu advertimento deu com uns desfalques no total de 20:000$000. Interrogado pela policia, procurou obter recursos para devolver a quantia que apropriou-se, mas foi inutil, vendo não poder proseguir a sua vida em socego, procurou o unico caminho, suicidar-se. Ainda mais, antes desse caso conforme noticiamos, um cobrador viajante desta folha, de nome Muneto Arato, tambem praticou um desfalque de uns contos, para com nosso jornal motivado pelo jogo, em Santos. O Jogo de Azar é tão horrivel e desgostoso pela classe séria. Si formos fazer a soma do dinheiro que os japoneses perdem no jogo, resultará uma enorme quantia.

A respeito deste assunto já o «Nambei-Shimpo» publicou em sua critica.

O que vieram fazer no Brasil?

Talves os jogadores abituados têm em suas ideias e teimam de pouco apreço dizendo que são jogadores e ninguem terá cousa alguma com isso; por este motivo quero interrogar aos jogadores, que vieram fazer no Brasil! para serem jogadores profissionais? Todos patricios quando vêm para o Brasil requerem dizendo, vir ao pais afim de serem lavradores ou comerciantes etc. contudo ser honesto ao trabalho. Aos que estão abituados e inflamados com os jogos, lavem seus rostos e reconhessam seus passaportes, que verão o emblema do imperio japones o «Kiku no Gomom» e ficarão entusiasmados com o radiante brilho como simbolo e honra da sua patria.

Falando em geral, o jogo é um destruidor do caracter da pessoa, esse mau espirito quanto não influirá a humanidade. Naturalmente esses jogadores são uns extremados egoista que não compreendem, em seguida influira a familia ao mau exemplo, parentes, moços, e meninos, emfim até a sociedade; pensando-se neste caso importante, devemos castiga-los socialmente e tomarmos providências para Jogo de Azar ser definitivamente eliminado. (Traduzido)

* *

Milagres do Senhor do Bomfim

Existe numa igreja de construção muito antiga, da cidade alagoana de Camaragibe, uma imagem do Senhor do Bomfim; interessante é que este santo está suando sangue.

Desde tempos remotos, às cousas que não se podiam acreditar, dizia-se é sagrado. Mas, o referido boato foi crescendo, foi criando interesse, que atraiu, não só os habitantes daquela zona, como tambem inumeros religiosos e simples curiosos de longe, o certo é que em frente dessa igreja ha uma verdadeira multidão. Tanto que dizse Camaragibe, aquela pequena cidade, tornou-se a Meca da America do Sul.

Se por acaso, isto fosse apenas um simples suor ou agua, o povo não seria tão atraido pela curiosidade; mas se trata de gotas rubras que se espalham em quantidade ao redor da imagem.

* * *

Este fato tornou-se conhecido de todo mundo, e até a ciência já começou a interessar-se tendo partido para o local uma comissão de médicos para ser estudadc em ciências.

Pois que seja feito este estudo; não valerá a pena ser revelado o resultado, «cousa que é sagrada deve ser conservada sagrada» esse deve de ser o desejo de Deus.

Aqueles cantos maravilhosos das sereias aquelas minas de Salomão, são lendas que consideramos ainda hoje como se fossem lindos sonhos, apesar dos séculos que já atravessaram.

É porque naquele tempo não haviam os cientistas de hoje, que mechessem nas cousas que eram tidas como sagradas.

* * *

Se porventura o resultado do estudo desses médicos for como o do ovo de ouro da história de Izop, seria cometer o maior pecado ao Deus. Para isso não se acontecer, seria prudente adotár que este fenômeno fosse sacro, fosse o milagre de Alagoas, que tornasse uma cousa famosa e fosse guar-dada como lenda para o futuro.

Não seria esta a ocasião oportuna para ser posta ao lado da imagem uma taboleta de aviso dizendo:-«não se deve profanár», como se fossem palavras enviadas por Deus?

(Tradução da nossa folha)

* * *

(讀物)

劍禪一味

伊井隆夫作

能登守の居間——燈架にかぶい光が灯つてゐるだけ誰も居ない。

『……静に——開いてぬッと——四邊りに氣を配り乍ら、抜き足、差し足、這入り込んだ優女……。

燈架の傍の文机の上にあつた黒地金巻繪の文筥を執つて——にッたり……莞爾と頬笑み乍ら、懐ろに收め靜に退らうとして……

『あッ』と、聲を發げた。

開けられた儘の戸口には何時の間に來たのか、主、能登守忠義が、にツこと、佇立んでゐるではないか。

二足、三足、たじたじと後退さつた女——危機と悔へ手を入れて、キツと身構へた——。

『斯かる事もあらふかと存じてゐたぞ、お雪……』

相變ず頬笑んだ儘の能登守何處にも敵意は見えない。

『予の推察通り其方——湯殿で毎日說いて聽かせた御法が未だに解らぬとみへるなう……』

『……』

『其の文筥を殊勳に、邪のもとへ戻るのか……』

お雪の顔は……殺氣が失せて、次第に苦痛の色が增していつた——と、ぎらり！光つた七首ッ——ばらツと燭へ投げ捨てると、俄破ッと、疊へ身を投げだした。

……微に身が搖れて、次第に嗚咽の聲が昂つた。

『善か、惡か——いづれにか、其方、隨分、惱みと闘つたなう……』

微塵、怒りの色なき能登守の温情。

『……は、はい——御前樣のお情けに、身も心も搔きむしられるやうな想ひを續け、遂に惡に負けて大それたところを、お眼にかけて了ひました』

『——それも亦、善に甦つたなう……？』

『……は、はい——』

暫く、お雪い啜り哭きが續いた、凝と眺めた能登守、愛撫の温情を湛えて

『判りさへすれば、それでよいのぢや、何も彼もなかつた以前としてとらすぞ』

『え、わすれて……あ、ありがとう存じます——よこしまとも知らず、いえ能登守の居間——燈架にかぶい光が灯つてゐるだけ誰も居ない。

『……静に——開いてぬッと——四邊りに氣を配り乍ら、抜き足、差し足、這入り込んだ優女……。

燈架の傍の文机の上にあつた黒地金巻繪の文筥を執つて——にッたり……莞爾と頬笑み乍ら、懐ろに收め靜に退らうとして……

『あッ』と、聲を發げた。

開けられた儘の戸口には何時の間に來たのか、主、能登守忠義が、にツこと、佇立んでゐるではないか。

二足、三足、たじたじと後退さつた女——危機と悔へ手を入れて、キツと身構へた——。

『斯かる事もあらふかと存じてゐたぞ、お雪……』

相變ず頬笑んだ儘の能登守何處にも敵意は見えない。

『予の推察通り其方——湯殿で毎日說いて聽かせた御法が未だに解らぬとみへるなう……』

『……』

『其の文筥を殊勳に、邪のもとへ戻るのか……』

お雪の顔は……殺氣が失せて、次第に苦痛の色が增していつた——と、ぎらり！光つた七首ッ——ばらツと燭へ投げ捨てると、俄破ッと、疊へ身を投げだした。

……微に身が搖れて、次第に嗚咽の聲が昂つた。

『善か、惡か——いづれにか、其方、隨分、惱みと闘つたなう……』

微塵、怒りの色なき能登守の温情。

『……は、はい——御前樣のお情けに、身も心も搔きむしられるやうな想ひを續け、遂に惡に負けて大それたところを、お眼にかけて了ひました』

『——それも亦、善に甦つたなう……？』

『……は、はい——』

暫く、お雪い啜り哭きが續いた、凝と眺めた能登守、愛撫の温情を湛えて

『判りさへすれば、それでよいのぢや、何も彼もなかつた以前としてとらすぞ』

『え、わすれて……あ、ありがとう存じます——よこしまとも知らず、いえ

【第二面へつゞく】

眼專門 (三)
眼の病氣なら何でも診療します元リオのモウラ・ブラジルの助手
●診療所サントス市ルア・ソブラゾンセーロス・タバレス三一(二階十二、十三、十四號室)電話五五五九
●時間朝九時より十一時、午后は三時より五時半、土曜日は九時から十一時まで
●自宅サントス市アベニーダ・バルトメウ・グスモン六四電話二四五四

聖市グローリア街三五 電話二一六八四八
淺倉齒科院
Rua da Gloria 352
S.Paulo
(Largo do S.Paulo)

主要產物市況
●カフエー (四級品)
●アルゴドン (五級品)
●白米(アグーリヤ)買値 エストラポン 一俵、〇〇〇 五七、〇〇〇
●フエジヨン 買値 ムラチーニヨ 同上ポン 一俵、〇〇〇 四五、〇〇〇
●ミーリヨ 一七、五〇〇 一五、七〇〇
●アマレリニヨ アマレロン 買値
●バタチンニヤ スペリオルポア 四一、〇〇〇 三六、〇〇〇
●メリケン粉 一等品 四七、〇〇〇
●砂糖(白極上) 一〇、〇〇〇
●パンニヤ(箱) 一俵、〇〇〇 六〇〇
●マモーナ

日本人に貸農し
日本人集團地の聖市郊外タボン(イタベシリカ街道に沿ふ)野菜向き土地一アルケールを日本人家族に貸します。條件は生產高の三分の一を當方に納ければよろしい
詳細は左記へ來談下さい
RUA APENINO 222
(Liberdade)
S. PAULO

Dr. Eduardo Dutra Vaz
Advogado
民事 商事
刑事々件
●訴訟費用は當方にて立替、報酬は事件解決後に戴きます
辯護士エヅアルド・ヅトラ・ヴアス
聖市オンゼ・デ・アゴスト街二〇番三階
電話二一七六一六 (八全)

DR. DURVAL LIVRAMENTO PRADO
●診療所サントス市ルア・ソブラゾンセーロス・タバレス三一(二階十二、十三、十四號室)電話五五五九
●時間朝九時より十一時、午后は三時より五時半、土曜日は九時から十一時まで
●自宅サントス市アベニーダ・バルトメウ・グスモン六四電話二四五四

特許 取扱
アドルホ・ブルンネル
聖市サンベント街二〇〇
一階第九室
電話 二一四三二一

求少年
社内の仕事見習としてまた日本語を學びたいと云ふ伯國生れの少年十四、五歳で身體强健なる者數名採用します
望みの方は父兄同伴いつでも午后二時から五時までの間に來談あれ、但し遠方の人は本人自筆の履歷書に寫眞と父兄の承諾書を添へて送らるゝも可し
南米新報社

腦神經專門
當方はジユケリー精神病院の專門醫
●診察所
聖市ルア・ドン・ジヨゼー・デ・バロス一六八 第六階
電話四一二五五番
●毎日午后二時ヨリ五時迄 (四三)

Dr. Francisco Tancredi

小兒科專門
榮養不良、內分泌ニ關スル病氣、小兒神經病、呼吸消化器系及泌尿病
●小兒ノ喘息
●診察時間毎日午后二時ヨリ六時マデ
ドトール ミルトン フオンセツカ
Predio da Casa Mappin 6º andar. Tel. 4-68.4
Res: Tel. 8-3335 (OIK)

西川法律事務所
一、鑑識手帳(カデルネツタ・デ・イデンチダーデ)手續
一、商業登錄及會計事務
一、其の他一般通譯
迅速叮寧ニ御相談ニ應ジマス
高商在學中 西川修二
聖市 ルーア・ド・カルモ五八番

御旅館 ニツポン 西川智穎
聖市 タバチンゲーラ街二二四 電話二一九二四七
ガラージ・ジヨン・メンデス 電話二一七四九九

CASA HAMAOKA
Rua Carlos Garcia, 103 S. Paulo
肥料・農業藥品種子物の注文は弊店へ
●配合肥料 アルゴドン用バタ、用蕉葉用トマテ用其の他
●害虫驅除劑 ヴエルデパリス、アルセニア トデシユンボ 硫酸銅
●農業用諸機械
●各種種子物
聖市 メルカド裏川向 カロス ガルシア街一〇三 郵函 九九三
濱岡商店

"Confeitaria Germania"
コンフエイタリア ゼルマニア (九)
菓、珈琲、ショコラテ、お菓子、ソルヴエテ等御家族御同伴には好適の場所(時間に制限なし)又フエスタ洗禮式結婚式の御用命にも應じます。
●日本の音樂
毎週金曜日夜九時より十二時迄は皆樣のお慰しい日本の音樂を奏します。
聖市 ラルゴ、サンタエフイゼニア 一四
電話 四一七八〇〇

GELO
冷藏庫
一日一萬瓩迄の製氷力を有し五十瓩から五百瓩の氷が自動的に出來、一般家庭、バール、肉屋食料品店ショコラテ工場マンテイガ化學生產品等のためには是非必要品です蒸氣裝置やコンデサドールの型や能力、大さは勿論如何なる方面のモンタージエンでもお求めに應じます。
Fabrica Brasileira de Machinas Frigorificas "Niper"
R. Ipanema, 367 Tel. 3-4248
S. Paulo (IIIP)

社員を求む
●記者 三名
但し備語を解し日本に於て中等以上の教育を受けたる思想堅實なる者
●事務員 二名
但し備語を解する者に限る
右希望者は履歷書携帶本人直接御來談ありたし
昭和十四年八月九日
聖市 南米新報社